

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 8 月 22 日	
所属部局・職	(公財)モンキーセンター 事務部
氏名	安倍 由里香

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
東京都・東京国際フォーラム	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
丸の内キッズジャンボリー2017への参加	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 8 月 16 日 ~ 平成 29 年 8 月 16 日 (1日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
東京国際フォーラム	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回 8/15~16 日に東京でおこなわれた丸の内キッズジャンボリーに参加してきた。私は 16 日のみの参加で JMC ブースを担当した。</p> <p>昨年も参加いただける機会があり、事務部として接客や学びの場を提供した。今年は科学コミュニケーションを取り入れ、テーマに沿って子供たちや親御さんと会話をした。テーマは「動物園はなんのためにあるのか」という何とも答えのない難しいテーマだった。私の意見を鵜呑みにして答えを書くのではなく、しっかりと自分で考え、自分の納得できる答えにたどり着くように誘導することが必要だった。しかし最初は経験不足で大淵キュレーターのようにうまく話せなかった。見かねた大淵キュレーターが、無口な子供には簡単な質問から聞いてみることや、答えが「YES」の質問より「NO」になる質問をすると良く反応してくれること等をご教授くださり、それをもとに子供たちや親御さんとの会話の中で取り入れた。するとテーマについて最初は「楽しむため」と答えた子供が、自分と対話することにより「保全のため」や「珍しい動物を間近で観察できるため」などの答えを自分で見出すことができた。「動物園は何のためにあるのか」というテーマに答えはなく、逆に言えば何通りも答えがでる。その子の中でたくさんの動物園の存在意義を増やすことができ、嬉しかった。</p> <p>また、親御さんとの会話の中でサルの毛皮を「怖い」「可哀想」と言われ、↑ JMC ブース る方が数名いた。そのことについてモンキーセンターには優秀な研究者が多く在籍していて、研究や未来に役立てるために亡くなった個体の骨や毛皮をすべて保管していることを丁寧に説明すると、「たしかに燃やして灰になるよりかは、こうやって残した方がその子も幸せかもしれないね」と理解を得ることができた。</p> <p>今度モンキーセンターに遊びに行きたいといわれるお客様も数名おり、少なからず今後の集客・宣伝に効果があったのではないかと考える。このような機会を与えてくださった松沢所長をはじめ、今回お世話になったすべての皆様に感謝申し上げます。</p>	
	
	
↑ 接客の様子	
<b>6. その他</b> (特記事項など)	